

令和7年度 学校評価（自己評価）報告

明德やちまたこども園

1 本園の教育理念・目標・方針

○ 教育理念

千葉明德学園、建学の精神は「明德を天下に明らかにせんとする者は、先ず其の知を致せ」である。これは中国の古典「大学」からの出典である。

明德とは人が天から得た、生まれながらに持つ優れた能力、人間として生まれながらにして持っている人間性を言い、「明德を明らかにする」とはそれを輝かせることである。その為にはまず、幼児期には健康な身体とその年齢らしい心の育ち、そして他者との対話力、直接体験を通じた知識と知恵を身につけ、徳と知、善悪の判断が出来る人間性を育てていくことと考えている。

○ 教育目標

自他を尊重し、五感を働かせて自らの生活を切り拓いていこうとする子

○ 具体的な目標

- ・元気な子 (身体を使った遊びを楽しむ)
- (自分の思いを表現する)
- ・思いやりのある子 (友達と思いきり遊ぶ子)
- (約束を守って遊ぶ)
- ・工夫する子 (新しい事に挑戦する子)
- (遊びを楽しく工夫する子)

○ 教育方針・特色

- ・自然の中で、五感（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる）を働かせ、直接体験を通して友達とかがわって遊ぶ。
- ・物を作る楽しさや、工夫する面白さを感じながら活動に取り組む。
- ・様々な事に出会い、心を動かし豊かな感性を育み、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちをくみ取ることが出来る。
- ・思いきり身体を動かす事を通して挑戦し、最後までやり遂げようとする気持ちを育む。

2 本年度のねらい

- ・人や環境とかかわりながら、一人ひとりがその子らしく園生活を送れるようにする
- ・子どもの人権に配慮した保育を心掛ける
- ・八街の豊かな農産物を生かした食育活動を行う

3 総合評価

No	評価項目	評価のまとめ
1	教育目標・保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度は人によってさまざまではあるが、職員は概ね理解している。今後も具体的な子どもの姿と照らし合わせながら対話を重ね、理解を深めていきたい。
2	教育過程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児クラスだけでなく、以上児クラスにも養護の観点をねらいとしてしっかりと入れるようにしたことから、職員がその必要性を理解するようになってきたと感じる。日誌の書き方についても園内研修を行ったことで、少しずつではあるが、子どもをみる視点の変化や理解につながったのではないかと思う。 ・かかわる年齢の発達や生活を見通して計画を立てたり、環境を構成したりするようになってきている一方で、異年齢のかかわりを含め、0歳～6歳の発達過程について抑えきれない面があると感じる。園に通う子どもたちにどう育ててほしいか、願いやねらいを含め考えていきたい。
3	保育の内容・対処法	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの性格や特性に考慮し、必要に応じてケース会議をもったり、外部講師を招いて研修を行ったりして、それぞれの子どもにとっての最善を大事にかかわってきた。引き続きその子にとってその時必要なかかわりを見極められるよう考えていきたい。 ・その時々で生まれた子どもの遊びを大切にしながら、遊びの繋がりや継続、異年齢とのかかわり等を意識できるようにしていた。しかし、異年齢で過ごす難しさを感じる場面が多くみられたため、そこで育つものは何か、実践を通して今後も学んでいきたいと考える。 ・ヒヤリハットの報告書や取りまとめ、安全にかかわる園内研修等を行うことで、大きな事故を防げるよう努めることはできた。
4	保育者としての資質、保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全面を優先するあまり、職員が怪我をすることがあった。職員自身、自分の健康状態の管理をできるようにしていきたい。 ・「5研修・研究」にあるように、様々な研修に意欲的に参加し、保育の質の向上に努めた。学んだことを保育に取り入れ、活かそうとする姿もあった。 ・組織の一員として、よりよい保育を目指す姿勢はみられた。一方で、園内の整理整頓には課題が残った。環境を通して行う保育とは何か？を考えると共に、子どもの安全面にも関わるため、一人ひとりの意識を高め、具体的な方法を検討していきたい。
5	研修・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた系列園の見学は難しかったが、キャリアアップ研修や千葉県・八街市の研修、子ども家庭庁主催の研修等にオンラインも利用しながら積極的に参加し、支援を要する園児・家庭への理解、小学校への接続や人権について等の学びを深めた。各自が学んできたことを園内研修として取り上げ、自園と

		<p>してどう考えていくか考える機会も設け、職員全体の学びにもつなげていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動や支援を要する園児に対する理解を更に深めたいという職員もいるため、次年度も引き続き研修の機会を設けていきたい。
6	運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の職務に対しては概ね責任をもって取り組むことが出来ていた。一方で、時間の使い方に課題がある。互いの仕事に対する理解をもち、声を掛け合って業務が進められるよう工夫していきたい。 ・施設設備に関する安全面は、用務が中心になって確認、修理をしていった。衛生管理については、以前よりは意識できているものの、忙しさから後回しになってしまうこともある。定期的に看護師が見回る等考えていきたい。
7	保護者との連携、地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時にコミュニケーションをとるよう努めていたが、今年度も伝達漏れや対応不足があり、保護者の方から指摘を受けることがあった。また、行事の日程やあり方について意見をもらうこともあった。保育をする上で、保護者の方の理解は必要不可欠であるため、丁寧な対応を心掛けると共に、必要に応じて面接等をして、共有・連携をしていきたい。本園だけで解決できないことは、関係各所と連絡を取りながら、適切に対応できるように努めていく。 ・地域との関わりは、昨年度同様、園だけではできない経験を近隣の方や小学校・高校の方の協力により実現することができた。また、5歳児は公立保育園との交流をできたことは、子どもたちだけでなく、職員にも良い経験となった。

4 今後取り組むべき課題

NO	課題項目	課題のまとめ
1	保育者としての資質、保育の質の向上	自分の課題に向き合うと共に、園全体の課題は何かを明確にして学びを深め、保育の質の向上に努める。
2	保育の内容・対処法	各年齢の発達について理解すると共に、遊びの連続性や継続、異年齢で過ごす時のかかわり方や環境の構成について学びを深める。
3	保護者との連携	日々のコミュニケーションが、子どもたちの成長や園理解につながると考えるため、丁寧な対応を心掛ける。